

第1回但馬地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日 時：2020年11月10日（火） 13時～15時

場 所：じばさん但馬2階 多目的ホール

次 第

1. 開会
2. 協議
会長、副会長、監事の選任について
3. 但馬地域公共交通計画の策定について
 - (1) 計画概要（背景・目的、国の動き、スケジュール）
 - (2) 但馬地域の現状と課題
 - (3) 住民アンケート（案）
 - (4) 試験運行計画（案）及び試験運行利用者アンケート（案）
4. その他
計画の構成（案）
5. 閉会

議事要旨

○主な意見

〔計画策定・現況に関するもの〕

- ・従来は、高齢者の人口が増加すると公共交通の利用者も増加するのではないかという期待があったが、実際にはそうっておらず、高齢者の人口そのものが減少している地域もある。
- ・現況や問題点、課題のまとめでは、行政の意見が強く、地域住民の意見が入っていないが、最終的にどのように反映させるのか。

【事務局】地域住民の意見や、アンケート調査の結果を踏まえ、最終的な課題設定をしたいと考えている。

- ・従来は各市町単位で地域公共交通網形成計画を策定していたが、広域で計画を策定することのメリットについて、どのように考えているのか。

【事務局】各市町単位の計画では、市町間の調整に時間がかかるなどの理由から複数の市町にまたがる路線バスの検討などが困難だったが、広域計画の場合はそうした路線バスの検討や、コミュニティバスの他市町乗入れなどの検討を行えることがメリットだと考えている。
すでに各市町等で策定済みの地域公共交通網形成計画は、地域内の交通への対策として尊重し、本計画においては、それらの計画との連携を図り、整合した内容とする。

【会 長】広域計画では扱わない生活路線に関しても、市町から県への要望や、逆に県から市町へ投げかけたいことなどを議論したい。

【事務局】どのような施策が考えられるのか、意見交換をしながら進めていく。

【会 長】どの市町にとってもメリットがある新たなビジネスモデルなどを検討できるのではないかと思う。交通事業者においては、新たにどのように商売をしていくか、持続可能性をどう強化していくかというのは、共通の検討事項だと思うので、その辺を念頭に置いて広域計画づくりを進められればと考えている。

- ・利用者の大幅な減少に加え運転手の確保も困難となっており、路線を維持するのも難しい状況にある。また、運転手の高齢化が進んでおり、安全性や給料面も問題となっている。
- ・広域の地域で議論する場面は少なく、本協議会の中で議論できればと考えている。
- ・現状でも交通事業者の努力だけで解決できる状態ではなくなっており、交通関連以外の部署も含めた、社会全体での協力が求められている。例えばスクールバスなら、全ての学校で同じ始業や終業時間ではなく、地域ごとや学年ごとで時間帯をずらすことで、必要なバス台数が少なく済む可能性がある。

【会 長】今後、公共交通の問題は交通分野からのアプローチだけでは解決できない状況になる。この協議会としても、事業者に対して、どのような協力ができるのかということも問題提起していきたい。バスの台数や運転手の必要数はピークの時間帯で決まるため、ピークの時間帯をずらす運動をしてみることも、この地域ではあり得る話と思っている。

[住民アンケートに関するもの]

- ・新型コロナウイルス感染拡大による外出への影響についての問9と問10について、問1の普段の外出での通勤・通学や通院といった外出目的のところとクロスチェックして判断するということか。
また、新型コロナウイルス収束後の利用回復は、問10の移動手段の二つめの選択肢にある「緊急事態宣言以前の移動手段にもどる」というところで把握するのか。

【事務局】問9については、問1とクロスチェックする。例えば問1で通勤・通学で鉄道を使っていたという回答で、問9で公共交通をできるだけ利用しなくなったという回答であれば、鉄道を利用しなくなったと判断する。問10についてはその通りである。

- ・問8は行政負担に関する設問だが、利用者や地域住民がどういった協力の仕方

が妥当か、もしくはどういう協力ができると思うかという質問にしてはどうか。

【事務局】輸送資源には限りがあるということを地域住民に認識してもらい、その上でどのような公共交通サービスの提供がよいか考えるきっかけとなるような質問に改める。

- ・3次救急病院は豊岡病院しかないため役割は非常に重要だといえる。病院の利用実態や乗り継ぎなどについて、アンケートに入れてみてはどうか。

【事務局】診療科や専門医療、見舞いなどの理由から、最寄りではない豊岡病院に通う人は多いと考えている。病院への移動需要や実態が明らかになるようアンケートに反映させる。

[試験運行及び試験運行利用者アンケートに関するもの]

- ・今年度と来年度に試験運行を行う予定とあるが、これは同じルートで行うのか、もしくは見直しを行うのか。

【事務局】来年度については事務局で協議し、別のルートを検討したい。

【(案1) 道の駅神鍋高原―道の駅村岡ファームガーデン】

- ・高校生の利用を想定しているが、2月、3月は終業式や卒業式の時期でもあり、需要が減る時期ではないか。また、学生は定期での利用が多いため、短期的に通学ルートを変更してまで利用するのか。

【事務局】当初12月頃を予定しているが、各沿線市町や交通事業者との調整が難航し、この時期になった。村岡高校に確認すると、日高方面から村岡高校に自転車で通っている学生がいると聞いている。2月、3月の神鍋高原周辺はスキー場も多くあり降雪が多く自転車での通学には危険が伴うため、公共交通が利用されるのではないかと想定している。

- ・日高方面から村岡高校へ自転車での通学や、村岡地域から豊岡病院への通院ということだが、実際にそういった移動の需要があるのか。

【事務局】村岡方面から豊岡病院に通っているという話は聞いているが、人数は把握できていない。

【会長】需要予測については、もう少し詰めてほしい。

【(案2) 湯村温泉―JR鳥取駅】

- ・観光客の利用を考えるなら、平日だけで土日は運行しないというのはなぜなのか。

【事務局】観光客を考えれば休日も含めた運行も考えられる。こちらに関しては前日の事前予約制を検討しているので、平日に限らず、休日の導

入も検討していきたい。

[その他]

- 県も計画策定主体となる広域計画ということで、例えば豊岡市、朝来市と京都府との関係、県境をまたぐ利用について、この広域計画の中で取り扱われるのか。

【事務局】各市町において観光で様々な取り組みをされているので、京都丹後鉄道との連携なども考えていきたい。特に観光施策などで非常に高い相乗効果が見込まれると考えているので、引き続き検討する。

以上